

情報公開を活かした専修学校の 質保証・向上に向けて

～専修学校における情報公開実践の手引き～

平成 29 年 3 月

文部科学省委託事業

「職業実践専門課程等を通じた
専修学校の質保証・向上の推進」

本書の目的と使い方

平成 19 年の学校教育法改正により、専修学校の教育活動等に関する情報の積極的提供が義務化されました。また、学校法人については、平成 16 年の私立学校法の一部改正により、学校法人の公益性を高め、自主的・自立的に管理運営する機能を充実させる観点から、財務諸表等の利害関係者への閲覧に関する義務が課されるようになりました。さらに、高等専修学校については、高校生等就学支援金制度創設を機に、平成 23 年 3 月、文部科学省において「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の策定、周知がなされました。また、専門学校についても平成 25 年 3 月に「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」が策定されました。

その後の情報提供の取組状況に関する実態調査からは、情報提供等により学校の状況について保護者・関係者の理解が深まり、学校の信頼をより高めることができることとともに、社会に対する説明責任を果たす意味でも有効であることが分かりました。一方で、情報提供等の内容は、学校間に差があることや、各専修学校の特色を分かりやすく公開し、外部から適切な評価を受けながら、教育水準の向上を図る観点がいまだ十分ではないことも明らかとなりました。

本書は、このような状況を改善し、多くの専修学校において、情報提供等が意義のあるものとして実施されるよう作成したものです。特に、専修学校の質保障・向上に向けて積極的な情報提供が求められていることを踏まえ、本書では、「情報公開」の用語を用いるとともに、情報公開の効果的な方法やポイントについても詳しく記載しています。以下のような作成の趣旨をご理解いただき、効果的にご活用ください。

■本書は、学校の情報公開を実施するにあたっての“ポイント集”です。

本書は、「どのように学校の情報公開をしたら良いのかわからない」「効果的な情報公開方法がわからない」といった、何から始めたらいかがかわからない、あるいは、うまく進めることができず悩んでいる方々を対象に作成しています。情報公開を効率的に行うためのポイントや流れなどを、先駆的に取り組んでいる学校の事例を交えつつ紹介しています。

■本書は、学校の情報公開に関する“唯一の答え”を示すものではありません。

学校の情報公開の方法は、学校によって様々です。本書に示す考え方や視点、ヒントは、情報公開を効果的に行うために重要なポイントですが、唯一の答えではありません。また、掲載した事例と同じようにやれば必ずうまくいくというわけではありませんし、事例の通りに行う必要もありません。学校が、「今、できるところからはじめて、徐々に増やしていく」という意識をもって進めていただけたら幸いです。

■関係するガイドラインと相互参照してください。

本書は、「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」（平成 23 年 3 月文部科学省）または「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」（平成 25 年 3 月文部科学省）の理解を深め、かつ、具体的なアクションの手助けになるように作成したものですので、相互に参照しながらご活用ください。ガイドラインに示されている情報公開項目は、本書の 45-47 ページをご確認ください。なお、ガイドラインの全体は、文部科学省のホームページ¹に掲載されております。

¹ http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1332632.htm

目次

1章 情報公開の意義と効果	1
1.1 情報公開の意義	1
1.2 実践校の声	2
2章 情報公開の進めかた	3
2.1 情報公開の基本的な流れ.....	3
2.2 情報公開の実施方法	4
(1) 情報公開の目的の決定・共有	4
(2) 公開内容の決定	5
(3) 公開する情報の収集・整理	10
(4) 公開手段の決定	12
(5) 情報の公開.....	18
(6) 公開内容の評価	27
(7) 情報を活用した学校運営の改善	29
3章 情報公開にあたっての留意事項	30
3.1 個人情報の取扱いや知的財産権の保護.....	30
3.2 学内の体制整備	32
3.3 SNSの利用.....	34
4章 参考資料	37
4.1 学校評価との関係.....	37
4.2 職業実践専門課程との関係	38
4.3 高等学校の進路指導担当者や専門学校への入学をご検討の皆様へ	40
4.4 中学校の進路指導担当者の皆様へ.....	42
4.5 様式等	43
4.6 情報提供等への取組に関するガイドラインに示されている情報提供項目	45
(1) 高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドラインの情報提供項目	45
(2) 専門学校における情報提供等への取組に関するガイドラインの情報提供項目	46
参考事例等	48
事例 1: 公正・正確な情報公開.....	48
事例 2: 学校評価と連携した情報公開.....	49
事例 3: 留学生に配慮した情報公開	50
事例 4: 体験授業等を通じた情報公開	51
事例 5: ターゲットを特化した情報発信.....	52

1章 情報公開の意義と効果

1.1 情報公開の意義

- 産業や労働環境が大きく変化し続ける中、専修学校がその教育理念、目的・目標、及び教育活動や組織概要、特徴的な教育内容や学校が抱えている課題などを、社会に対し正確かつ積極的に伝えることは、学校の教育活動・運営の改善に資するだけではなく、産業界と密接に連携した職業教育の充実により、社会の人材養成にかかるニーズを満たすことにも繋がります。
- 専修学校の情報公開を取り巻く背景として、学校教育法に定められた公共性のある教育機関として、説明責任を果たすべきとの社会的要請から、学校教育法や私立学校法における情報提供の義務化や、各種情報提供等への取組に関するガイドラインの策定などの動きがあります。
- また、生徒・学生の確保、生徒・学生の進学ミスマッチによる中退・不登校などの問題、今後さらに見込まれる外国人留学生の増加などに対応するためにも、専修学校は入学希望者などに幅広く、かつ、正確な学校情報を伝える必要があります。さらに、専門的・実践的な能力などを有する人材に対する企業などからの需要は年々増加しています。その結果、専修学校は今後さらに企業などとの連携を深め、産官学協同で人材育成をする必要性が生じると考えられます。
- 上記のような背景のもと、専修学校は積極的にその組織や教育活動などを公開し、教育の特色などを対外的にアピールすることが必要です。積極的に情報公開を行うことにより、社会への説明責任の遂行や、教育の質の保証・向上、社会からの信頼の獲得、関係業界などとの連携の促進などを実現することが可能になります。

- 専修学校を取り巻く背景の変化
- 入学希望者等をめぐる状況の変化
- 企業等をめぐる状況の変化

- 教育組織や教育活動等の情報の積極的な公表
- 各学校の教育活動の改善への取組や特色ある職業教育などの対外的なアピール

【情報公開の意義】

1. 社会に対する説明責任の遂行
2. 学校の教育の質の保証・向上
3. 専修学校制度に対する社会全体の理解・信頼の獲得
4. 関係業界等との連携・協力による専修学校の教育活動の改善・向上
5. 一人一人の能力・適性にあった望ましい進路の実現
6. 他校や他の教育機関との差別化
7. 各専修学校の姿勢や教育活動などに対する社会からの理解の促進
8. 各専修学校における教職員の自校の理解促進

※ 1～6は、「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」を参考とした。

1.2 実践校の声

- 学校の情報公開に積極的に取り組む学校からは、その効果として、①一人一人の能力・適性にあった望ましい進路の実現、②自校の特徴の再認知、③学校運営の改善、④学校関係者による理解の促進が指摘されています。

一人一人の能力・適性にあった望ましい進路の実現

- ホームページで学校の教育理念や学校生活、学ぶことができる内容について情報公開を行ったことにより、入学前と入学後に生徒・学生が感じる学校へのギャップが少なくなり、退学する生徒・学生が減少しました。生徒・学生一人一人の能力・適性にあった望ましい進路の実現には、できるだけ詳細な情報公開が重要です。また、入学後に退学者が出ると学校経営上も影響が生じるので、このようなリスクを回避するためにも正確な学校情報を事前に伝えることが大事であると考えています。

自校の特徴の再認知

- 情報公開は、教育機関の「鏡」です。学校のありのままの姿を公開することにより、自校の姿や個性を知り、学校の現状を捉えることができ、自校の取組を振り返る機会となります。
- 学校の特色や特徴的な取組を明らかにして、他校や他の教育機関との差を強調して情報公開したところ、入学者数が増加しました。自分の個性や興味・関心から、自分で進学先を選ぶ生徒・学生が増えている現在、情報公開は、学校と生徒・学生とをマッチングするものとして機能するべきです。他の学校が行っていない独自の教育内容を公開することにより、学校の個性を際立たせることができれば理想的です。

学校運営の改善

- 従来、電話で受けていた問い合わせ内容を詳細かつ的確にホームページで公開をすることにより、問い合わせ対応の事務量を削減することができました。
- 情報公開の準備として情報を整理する過程で、自校の情報が整理され、通常業務でも活かせるようになりました。学校の強み・弱みの分析や広報に関するマーケティングにも活用できます。

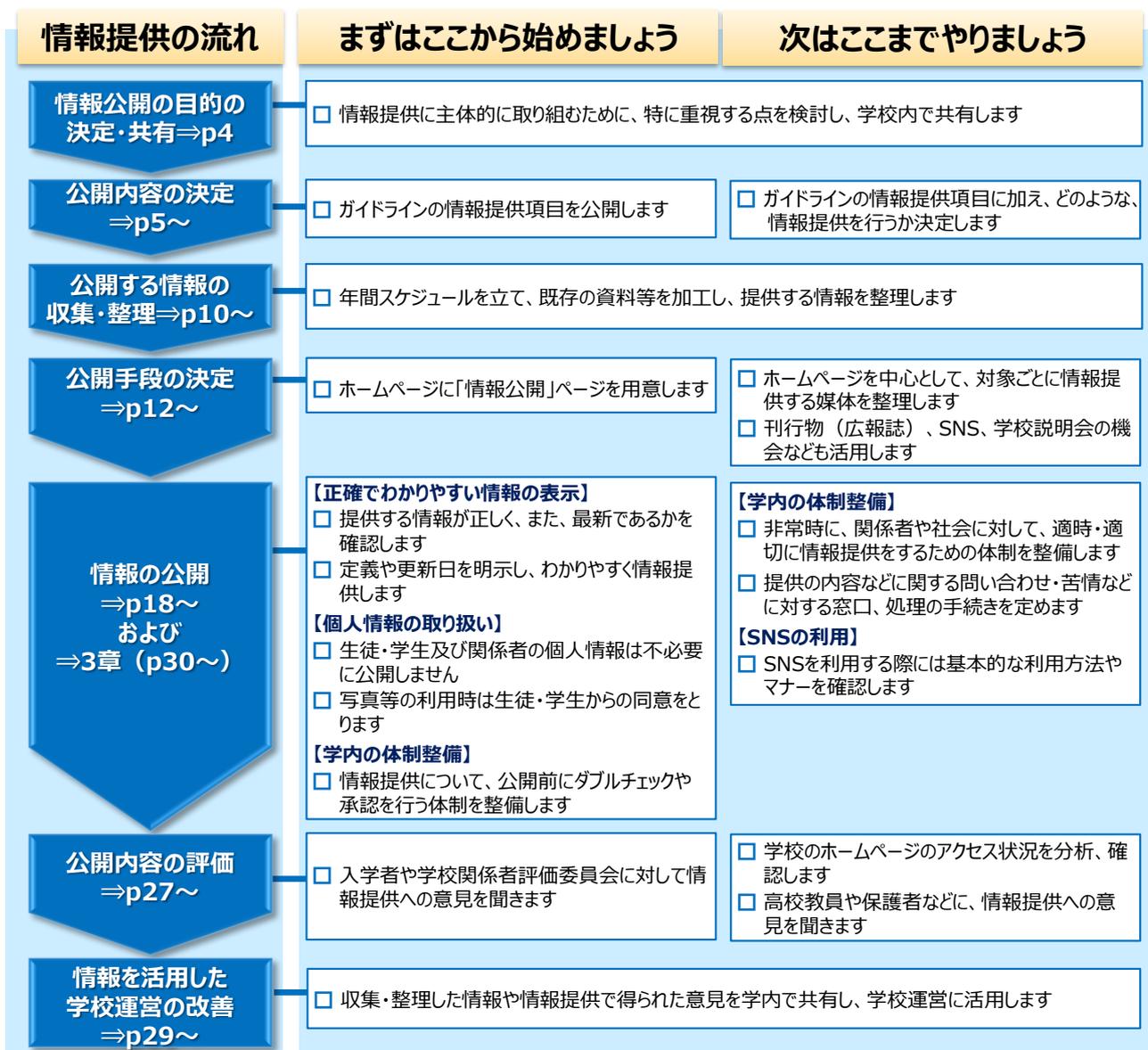
学校関係者による理解の促進

- 高等学校に対して、当該校の卒業生の様子や進路等を報告しています。中退者についてもその理由を説明する等、隠さずに伝えることで、学校としての信頼関係を得ることができました。
- 学校に関する情報を公開することにより、学校の姿勢や教育活動に対する生徒・学生や保護者、企業や高等学校などからの理解が深まりました。また、誠実に運営を行っている学校という評価を得られます。

2章 情報公開の進めかた

2.1 情報公開の基本的な流れ

- 情報公開とは、ガイドラインに示された項目をホームページで公開することだけを指すのではありません。情報公開すべき項目の公表に加え、学校要覧、パンフレット、説明会、刊行物、ホームページ等で従来行っていた広報活動なども含めて、見る人の視点に立って体系的にわかりやすく改善する取組です。本書では、主にホームページでの公開方法について解説しますが、その他の情報公開の方法についても要点を取り上げます。
- 情報公開にあたっての基本的な流れを以下に示します。流れごとに、考え方、参考とすべき取組事例、実施すべきでない事例、取組方法などを掲載しています。



2.2 情報公開の実施方法

(1) 情報公開の目的の決定・共有

- 情報公開は、単に情報発信するだけではなく、明確な目的・戦略のもとに行うことが学校運営にとって有効です。
- その作業負担などから最低限取り組めばよいと考えがちになりますが、情報公開にあたって何を重視するのかを改めて考えてみましょう。それらを踏まえて、情報公開を行う対象、内容を検討します。
- 重視する点を決定する際には、学校の基本方針等を踏まえて検討します。また、定めた目的を学校の教職員全員で共有し、情報収集する内容を決定し、教職員一人ひとりが各情報の意義・価値を理解して収集を行う体制作りを検討しましょう。
- 以下は学校が情報公開を行う際の目的の例です。ご自身の学校の状況に合わせて、情報公開において重視する点を改めて考えましょう。

事例 公正・正確な情報公開を重視

- 森ノ宮医療学園専門学校では、情報の良し悪しに関わらず公正・正確な情報を公開することを法人の方針としています。国家試験合格率も受験者数と合わせてすべて公開することで、数字に対する高い信頼を得ており、それが入学者の志望動機の一因にもなっています。

事例 入学前に十分な情報を開示することを重視

- 東京バイオテクノロジー専門学校では、入学前に入学後の学習内容や学習環境、就職実績、学校生活などについて正確な情報を伝えることを重視しています。入学前に正確な情報を伝えることで、学生が思い描く学校生活のイメージと入学後の学校生活のギャップが埋まり、結果的に退学者数の減少につながりました。

好ましくない事例 学校としてアピールしたい情報のみを公開することを重視

- 学校としてアピールしたいポイントのみをホームページに掲載しています。
→学費の総額や中退率など、学校として情報公開を避ける傾向のある事柄についても積極的に公開することで、中学校・高等学校の教員などからの信頼を得ることにつながります。

(2) 公開内容の決定

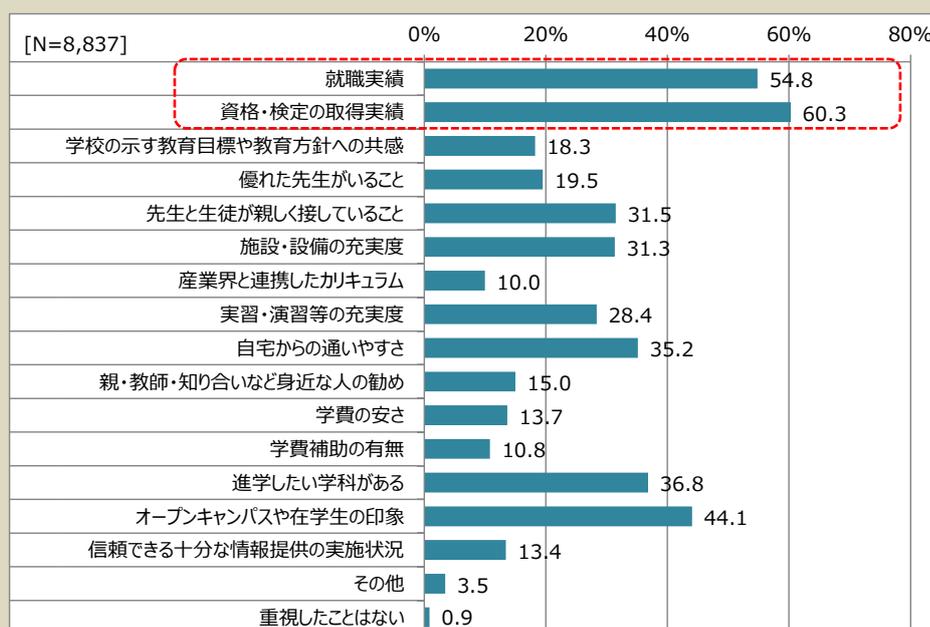
1) 公開が求められる共通項目

- 情報公開する内容のうち、**最低限公開すべきものは、「高等専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」または「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に掲載されている情報提供項目（具体的な項目は、45～47 ページを参照）**です。また、職業実践専門課程の認定校においては、これらの情報をすべて公開することが、認定要件の一つとして位置づけられています。（「[4章 参考資料](#)」参照）
- 学校は、ホームページを見る人が求める情報を公開することが重要です。必ずしも良い結果だけでなく、現状や問題等に関する事項についても、適切な情報公開を行っていくことにより、入学希望者、生徒・学生の保護者、中学校及び高等学校、卒業生、企業などのステークホルダーや地域との信頼関係を強めることができます。このことは他の公開方法でも同じです。
- なお、調査結果によると、多くの専門学校の在學生は、進学先選択時に重視した情報として「就職実績」や「資格・検定の取得実績」を挙げています。一方で、高等学校の教職員が、専門学校への進学相談・指導時に不足していると感じている情報として、最も多いのが「就職支援等への取組支援」、次いで「生徒支援への取組状況」や「資格取得、検定試験合格等の実績」となりました。これらのニーズを踏まえて、専修学校は、入学希望者が進路選択時に重視する情報を積極的に公開することが必要といえます。

参考

進学先を選択した時に、重視したこと

- 専門学校の在學生が進学先を選択した時に重視したことは、「資格・検定の取得実績」「就職実績」が多くなっています（複数回答）。



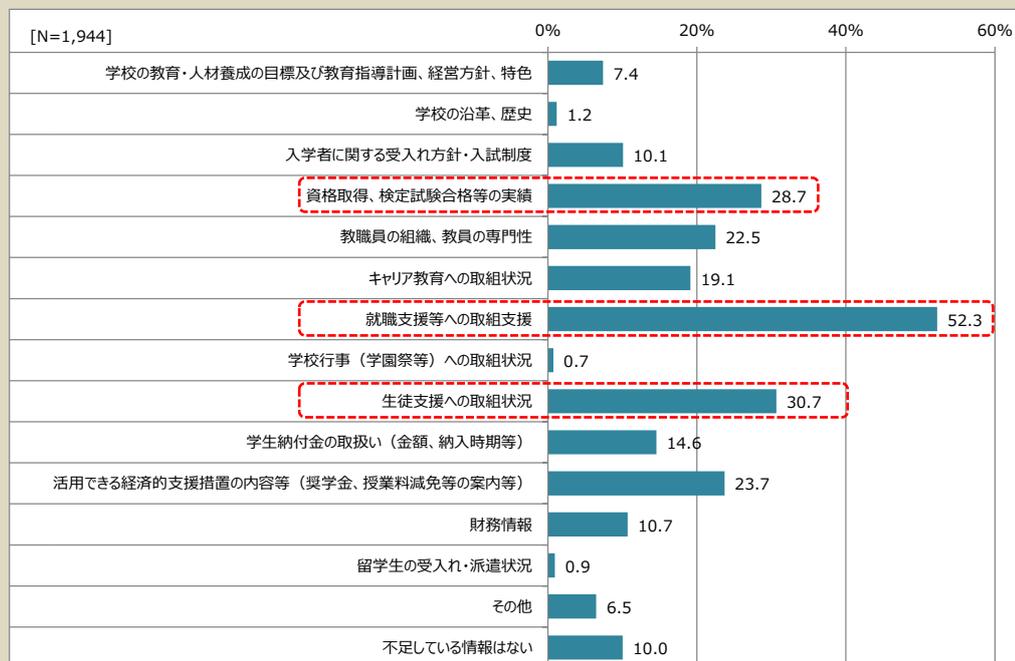
回答者：専門学校在學生（8,837人）、

（出典）「職業実践専門課程の実態等に関する調査研究」アンケート結果、2016年

参考

専門学校への進学相談・指導時に不足している情報

- 高等学校の教員が高校生への進路指導をする際に不足していると感じる情報は、「就職支援等への取組支援」が最も多く、「生徒支援への取組状況」「資格取得、検定試験合格等の実績」となりました（複数回答）。
- 「就職支援等への取組支援」「資格取得、検定試験合格等の実績」は公開しているにもかかわらず、不足していると考えられており、情報の質に課題がある可能性があります（「[2章（5）情報の公開](#)」参照）。
- また、「生徒支援への取組状況」「教職員の組織、教員の専門性」「キャリア教育への取組状況」などの情報を不足しているとする高等学校の教員は一定数いることから、専門学校での教育内容とそれを支える教職員に関心があることが分かります。



回答者：全国の高等学校（1,944校）、
（出典）「職業実践専門課程の実態等に関する調査研究」アンケート結果、2016年実施

事例 強力な就職活動サポート

- 東京バイオテクノロジー専門学校は、就職関連の情報として、学校側が公開している就職サポート、就職までの流れ、キャリアセンターの活用術、学科ごとに目指せる職業の説明、就職実績（産業分野毎の就職先一覧）、就職内定者速報（最新年度卒業予定者の内定先一覧）をホームページ上に掲載しています。

事例 取得可能な資格をわかりやすく発信

- 大阪技能専門学校（高等課程）では、学校に通うことで取得できる資格を分かりやすく表にしてまとめて公開しています。
- さらに、大阪技能専門学校の自動車整備科は、国土交通大臣指定の課程であり、指定科目ごとの時間数を学習することにより、実技試験が免除されます。このような学科特有のアピールポイントについても、積極的に情報発信しています。

資格・主催	本校の特典	●卒業後に受験可能 ●在学中に受験可能			
		自動車整備科	総合工業科	情報コース	総合商業科
三級自動車整備士（国土交通省）	実技試験免除	●			
中古自動車査定士（一般財団法人日本自動車査定協会）	18歳以上で受験可	●			
危険物取扱者（乙種4種・丙種） （一般財団法人消防試験研究センター）	本校にて受験可	●	●	●	●
アーク溶接特別教育（大阪労働局）	本校にて講習	●	●	●	●
ガス溶接技能講習（大阪労働局）	本校にて講習	●	●	●	●
文書デザイン検定 （文部科学省後援/日本情報処理検定協会）	本校にて受験可	●	●	●	●
ホームページ作成検定 （文部科学省後援/日本情報処理検定協会）	本校にて受験可	●	●	●	●
日本語ワープロ検定 （文部科学省後援/日本情報処理検定協会）	本校にて受験可	●	●	●	●
パソコンスピード認定 （文部科学省後援/日本情報処理検定協会）	本校にて受験可	●	●	●	●



(出典) <http://www.ots.ac.jp/license02>

2) 追加的な情報公開

- これらの他にも、各学校がアピールポイントとしている学校の特色等の情報については、積極的に公開・発信していくことが期待されます。より積極的に情報公開を行っている学校のホームページでは、以下のような情報を掲載しています。

■ 積極的に情報公開を行っている学校の情報公開項目の例

- 積極的に情報公開を行っている学校では、以下のような情報を掲載しています。ホームページで情報公開を行うにあたり、読み手が求める情報にすぐにアクセスできるよう、読み手対象別に整理すると、わかりやすくまとめることが可能です。

情報公開項目の例		対象者
①学校の概要	<input type="checkbox"/> イベント情報・ニュース 【例】オープンキャンパス、個別説明会、受験案内 <input type="checkbox"/> パンフレット資料（PDF や資料請求ページ） <input type="checkbox"/> 教育環境（学校の施設・設備、備品、校舎の立体図等）	入学希望者
②目標及び計画	<input type="checkbox"/> 学校の運営上の課題、課題への対応方法（学校側の工夫・改善への取組） <input type="checkbox"/> 学校が今後取り組みたいと考えている教育テーマ 等	入学希望者 企業
③各学科（コース）等の概要・教育内容	※学科（コース）ごとに <input type="checkbox"/> 各学科（コース）の目的・特色 <input type="checkbox"/> 科目一覧（時間割） <input type="checkbox"/> 授業内容 <input type="checkbox"/> 授業ピックアップ（特徴的な授業の紹介）	入学希望者 在学生 企業
④教職員	<input type="checkbox"/> 教職員の紹介（写真）、教職員からのメッセージ	入学希望者 生徒・学生
⑤キャリア教育・実践的職業教育	<input type="checkbox"/> 連携企業などからの声 <input type="checkbox"/> 就職先一覧、3年後、5年後の定着率 <input type="checkbox"/> 求人倍率、希望者就職率 <input type="checkbox"/> 学科別の職種紹介 <input type="checkbox"/> 職業実践専門課程・教育訓練給付制度に関する情報 <input type="checkbox"/> インターンシップ受入れ企業など	企業 入学希望者
⑥生徒・学生の生活支援	<input type="checkbox"/> 生活支援（住居やアルバイトや通学手段等）に関する情報 <input type="checkbox"/> 経済的支援制度（授業料免除、奨学金など）	入学希望者 生徒・学生
⑦学校評価	<input type="checkbox"/> 学校関係者評価 <input type="checkbox"/> 第三者評価の結果	入学希望者 企業
⑧その他	<input type="checkbox"/> 生徒・学生の声、学校生活 【例】年間スケジュール、生徒・学生の1日の紹介 <input type="checkbox"/> サークル、部活動 <input type="checkbox"/> 卒業生インタビュー <input type="checkbox"/> 生徒・学生の作品集 <input type="checkbox"/> コンテスト等実績 <input type="checkbox"/> FAQ 集 <input type="checkbox"/> ソーシャルメディアへのリンクページ <input type="checkbox"/> ブログ <input type="checkbox"/> 外国人受験者・留学生向けの情報（外国語による情報公開） <input type="checkbox"/> 同窓会 <input type="checkbox"/> 各種証明書発行について（卒業証明書、成績証明書等） <input type="checkbox"/> 企業などに向けた産学連携相談について（実習・演習連携、インターンシップ等） <input type="checkbox"/> 高等学校向け出張講座・来校授業について <input type="checkbox"/> 社会人・企業など向け職業教育訓練について	入学希望者 企業 高校教員 中学校教員 留学生 卒業生

事例 入学希望の中学生を意識した情報を公開

- 大阪技能専門学校（高等課程）では、入学希望者の目線で、公開内容を検討しています。例えば、ホームページには、高等学校と高等専修学校との違いや卒業後の進路、校則の内容や部活動の情報など、高等専修学校について詳しく知らない中学生の入学にあたっての誤解や不安を取り除く工夫をしています。

事例 各ステークホルダーが求める情報を公開

- 中村調理製菓専門学校では、多様なステークホルダーが存在するため、それぞれに対して情報公開を行っています。通常の情報公開に加え、受験生に対してはひとり暮らしガイドや学校生活の日々の様子などを写真で公開しています。また、併設の店舗を利用する地域の方に対しては営業時間やメニューといった店舗の情報を公開しています。その結果、学生が調理したものを販売する学園祭開催時には、学校からの情報をもとに、毎年約 7,000 人～10,000 人の地域の方が学校を訪れます。

- 情報公開の項目について、学校内の共通理解を図り、継続的に公開していくために、情報公開規程でその内容を定める方法もあります。

事例 情報公開規程の制定

- 森ノ宮医療学園専門学校では、情報公開規程において、情報公開する項目を定めています。法人共通の規程を設けており、系列大学と同等の項目を情報公開しています。

学園が公開する情報	
全般的な事項	<input type="checkbox"/> 学園の理念・目的 <input type="checkbox"/> 各学部・学科・研究科の目的 <input type="checkbox"/> 事業報告書の概要 <input type="checkbox"/> 寄附行為 <input type="checkbox"/> 財務状況経年推移（財務諸表、財務比率）の概要 <input type="checkbox"/> 財産目録の概要 <input type="checkbox"/> 寄付金、補助金の状況
教育研究体制	<input type="checkbox"/> 設置学部・学科 <input type="checkbox"/> 分野別科学研究費補助金採択件数 <input type="checkbox"/> 研究奨励寄付件数 <input type="checkbox"/> その他の教育研究関連外部資金導入状況 <input type="checkbox"/> 卒業生の就職状況 <input type="checkbox"/> 国家試験の合格状況 <input type="checkbox"/> 教育課程編成・実施の方針 <input type="checkbox"/> 入学者受入れの方針 <input type="checkbox"/> 各種入学選抜実施要領 <input type="checkbox"/> 入学選抜方法ごとの募集人数、志願者数、合格者数 <input type="checkbox"/> 研究目的 <input type="checkbox"/> 国内及び国際交流協定締結先機関
社会貢献	<input type="checkbox"/> 市民に対する学園施設の開放状況 <input type="checkbox"/> 地域社会連携事業の実施状況 <input type="checkbox"/> その他の社会貢献活動

(3) 公開する情報の収集・整理

- 公開する情報を決定したら、その情報を収集し、公開できるように整理をします。
- 情報は校内にありますが、公開にあたって整理が必要なことは少なくありません。年間スケジュールを立てて計画的に取り組むことが求められます。
- 公開する情報を大別すると、数値で表すことのできる定量的情報と、数値では表すことのできない定性的情報があります。これらの情報をバランスよく収集・分析して公開資料とすることが理想的です。
- 以下は、専修学校の情報収集・整理のスケジュールです。これらの年間スケジュールを踏まえて、情報公開のスケジュールを立てると良いでしょう。下記に示すスケジュールはあくまで一例ですので、各学校の状況に踏まえてスケジュールを設定してください。

■ 財務情報の公開とスケジュール例

- 学校法人は、公共性を有する法人としての説明責任を果たし、関係者の理解と協力をより得られるようにしていくという観点から、財産目録、収支計算書、貸借対照表、事業報告書及び監査報告書を作成し、利害関係者などから閲覧の請求があった場合、それに応じることが私立学校法により求められています。
- ホームページで財務情報を公開した学校からは、「公開したことによって、特に問題や問い合わせは発生していない」、「小規模な学校だったが情報公開をしてからは、企業からの求人があるなど学校としての信用力が増した」などの利点が挙げられています。公開時期は、前年度決算確定後の5月以降が考えられます。

項目	小項目	活動内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
財務情報	財産目録	財産目録の作成	●	→										
		財産目録の公表		●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	資金収支計算書	前年4月～3月までの収入・支出を算出	●	→										
		資金収支計算書の公表		●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	消費収支計算書	前年4月～3月までの収入・消費支出を算出	●	→										
		消費収支計算書の公表		●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	貸借対照表	前年4月～3月までの資産・負債・基本金・消費収支差額を算出	●	→										
		貸借対照表の公表		●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	事業報告書	事業報告書の作成	●	→									●	→
		事業報告書の公表	●	→	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	監査報告書	監査報告書の作成	●	→										
		監査報告書を理事会及び評議員会に提出	●	→										
監査報告書の公表			●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	

情報公開の進めかた

■ 学校評価や教育課程編成委員会に関する情報とスケジュール例

- 専修学校は、自己評価の実施と評価結果の公表が義務付けられています。また、学校関係者評価の実施と評価結果の公表についても、努力義務とされています。また、職業実践専門課程では学校関係者評価の実施、年2回以上の教育課程編成委員会の開催が義務付けられています。
- 情報公開としては、少なくとも最終的な評価結果を公表する必要があります。
- 議事録を公開する場合には、記述内容について出席者への確認をとります。

項目	小項目	活動内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
質保証に関する会議関連	自己評価	重点目標の設定・評価項目の作成・スケジュール策定	●	→											
		日常的な点検、授業評価等調査	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
		中間自己評価						●	→						
		最終自己評価、重点目標達成状況の評価、項目ごとの総合評価、成果・課題分析											●	→	
		自己評価報告書の公表												●	→
	学校関係者評価	第1回学校関係者評価委員会の開催						●	→						
		第1回学校関係者評価委員会の結果公表								●	→	→	→	→	
		第2回学校関係者評価委員会の開催									●	→			
		第2回学校関係者評価委員会の結果公表											●	→	
		第3回学校関係者評価委員会の開催												●	→
		第3回学校関係者評価委員会の結果公表													●
	教育課程編成委員会	第1回教育課程編成委員会の開催						●	→						
		第1回教育課程編成委員会の結果公表								●	→	→	→	→	
		第2回教育課程編成委員会の開催											●	→	
		第2回教育課程編成委員会の結果公表												●	→

※スケジュールは学校によって異なるため例示

■ その他提出書類に関するスケジュールの例

- すべての専修学校に毎年提出が義務付けられている学校基本調査の作成・提出・公表のスケジュールと、職業実践専門課程の申請スケジュールを踏まえて、定期的に情報を更新していく必要があります。

項目	小項目	活動内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
その他提出書類	学校基本調査	学校基本調査票の配布												●	→
		調査票の作成		●	→										
		調査票の提出（提出期限は各学校の所轄庁により異なる）		●	→										
		学校基本調査速報値の公表（文部科学省ウェブサイト）						●	→						
		学校基本調査確定値の公表（文部科学省ウェブサイト）											●	→	
職業実践専門課程申請など	職業実践専門課程	所轄庁から文部科学省への推薦書類提出締切り（H28の場合）					●	→	→	→					
		専門学校から所轄庁の提出期限は個別に所轄庁が設定					●	→	→	→					
		職業実践専門課程として告示（過年度の場合）												●	→
		職業実践専門課程制度において求められる情報公開の実施	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

(4) 公開手段の決定

1) 学校のウェブサイトにおける「情報公開」ページの準備

- ホームページにおいて、「職業実践専門課程の基本情報について（別紙様式4）」及び情報提供ガイドラインの情報提供項目を公開する場合、トップページのわかりやすい場所にリンクを貼り、一覧として整理した「情報公開」ページを設けるなど見る人への配慮が必要です。具体的なレイアウトについては、下図を参考にしてください。
- 情報提供項目の中にはホームページの他のコンテンツと重複する項目もありますが、「情報公開」ページから最新の情報にたどれるようにすることが重要です。
- 情報の一元管理を図る観点から、「情報公開」ページからホームページの該当箇所にリンクを貼ることで、更新時の作業を減らすことができます。この場合、学校個別の情報は、設置法人など外部のサイトではなく、各学校のサイト内でリンクを貼る方法で公開する必要があります。
- 全国専修学校各種学校総連合会の「全専各連「職業実践専門課程」指針²」では、わかりやすい情報公開の方法を具体的に記載しています。これを参考に情報公開をすることで、ガイドラインの規定を満たすことができるので、参考にしてください。

The image shows a school website layout and a detailed view of the 'Information Disclosure' page. The website header includes '学校法人〇〇学園' and '〇〇〇〇専門学校'. The main navigation menu has '学校案内', '学科紹介', '入学案内', 'アクセス', and '情報公開'. A callout box points to the '情報公開' link, stating: '学校のホームページのトップページのわかりやすいところに、「情報公開」ページへのリンクを貼る'. Another callout box points to the '情報公開' link in the top right corner, stating: 'トップページのリンクをクリック'. The detailed view of the '情報公開' page shows a list of information disclosure items, including '職業実践専門課程の基本情報（別紙様式4）」, '情報提供ガイドラインに基づく情報提供項目', and 'お問合わせ先'. A callout box points to the '情報公開' link in the detailed view, stating: '「情報公開」として独立したページを設ける・ガイドラインに基づき、情報を掲載（サイト内の該当ページへのリンクでもよい）・職業実践専門課程は、別紙様式4も掲載'.

² http://www.zensenkaku.gr.jp/shokugyo_jissen_shishin/index.html

情報公開の進めかた

好ましくない事例

「職業実践専門課程の基本情報について(別紙様式4)」は閲覧のみに制限

- 「職業実践専門課程の基本情報について(別紙様式4)」の公開については、ファイルの保護をかけて閲覧のみにしています。
- 「職業実践専門課程の基本情報について(別紙様式4)」は、自由にダウンロードや印刷ができるようにし、他の学科との比較を容易なものとする必要があります。

好ましくない事例

「職業実践専門課程の基本情報について(別紙様式4)」をホームページの見つけにくいところに配置

- 学校としては通常のホームページ作成に力を入れているので、「職業実践専門課程の基本情報について(別紙様式4)」はホームページで検索しないと表示されない設定としています。
- 「職業実践専門課程の基本情報について(別紙様式4)」及び情報公開のページはホームページにわかりやすく配置することが必要です。情報公開に熱心ではないという印象をもたれること、信頼を失うことにもつながりかねません。

- 情報公開のページにおける学校の掲載項目の例は以下のとおりです。

学校名	掲載内容
A校	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価 ・自己評価 ・学校関係者評価 ・職業実践専門課程の基本情報(別紙様式4)
B校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の概要、目標及び計画 ・各学科等の教育 ・教職員 ・キャリア教育・実践的職業教育 ・様々な教育活動・教育環境 ・学生の生活支援 ・職業実践専門課程の基本情報(別紙様式4) ・学生納付金・修学支援 ・学校の財務 ・学校評価 ・国際連携の状況 ・その他(災害時・非常時の対応)
C校	<ul style="list-style-type: none"> ・中期経営計画 ・財務情報 ・職業実践専門課程の基本情報(別紙様式4) ・自己点検・自己評価報告書 ・学校関係者評価報告書
D校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の概要、目標及び計画 ・各学科(コース)等の教育 ・教職員 ・キャリア教育・実践的職業教育 ・様々な教育活動・教育環境 ・学生の生活支援 ・学生納付金・修学支援 ・学校の財務 ・学校評価 ・国際連携の状況 ・職業実践専門課程の基本情報(別紙様式4) ・学則
E校	<ul style="list-style-type: none"> ・役員名簿 ・事業報告書 ・消費収支計算書 ・貸借対照表 ・財産目録 ・監査報告書 ・第三者評価に関わる情報公開 ・職業実践専門課程の基本情報(別紙様式4) ・学校関係者評価委員会名簿 ・学校関係者評価委員会議事録 ・教育課程編成委員会名簿 ・教育課程編成委員会議事録 ・過去に公開された情報ページのリンク
F校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の概要について ・目標および計画 ・各学科等の教育 ・教職員 ・キャリア教育・実践的職業教育 ・様々な教育活動・教育環境 ・学生の生活支援 ・学生納付金・修学支援 ・学校の財務 ・学校評価等 ・職業実践専門課程の基本情報(別紙様式4)
G校	<ul style="list-style-type: none"> ・職業実践専門課程の基本情報(別紙様式4) ・学校の概要、目標及び計画 ・各学科等の教育 ・教職員 ・キャリア教育・実践的職業教育 ・学生納付金・修学支援 ・学校の財務 ・学生の生活支援 ・様々な教育活動・教育環境 ・学校評価
H校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の概要、目標及び計画 ・各学科等の教育 ・教職員 ・キャリア教育・実践的職業教育 ・様々な教育活動・教育環境 ・職業実践専門課程の基本情報(別紙様式4) ・学生の生活支援 ・学生納付金・就学支援 ・学校の財務 ・学校評価 ・国際交流の状況

2) 複数の情報公開手段の活用

- 学校のホームページ以外による情報公開手段を考えるにあたっては、どのような情報を、誰に対し、「どのように」公開するのが重要になります。
- **公開手段を決める際には、各手段の特徴を踏まえることが重要**です。例えば、学校の教育内容について詳しく伝えたい場合、学校説明会等、対面の場を使うことも考えられますし、遠方の入学希望者にも広く周知したい場合にはホームページが有効です。容易に情報にアクセスすることができる「ホームページ」や、学校説明会等において配布できる「学校案内パンフレット」など、**掲載する情報やその情報を必要とする対象者を考慮して、公開手段、あるいはその組み合わせを決めましょう。**
- また、学校によっては、学校説明会や学校の窓口においてホームページよりも詳細な情報を公開している場合があります。特に、口頭での説明を追加した方が分かりやすい情報については、このような方法をとることも考えられます。

分類	公開手段の例	利点	欠点
紙媒体	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内 ・募集要項 ・パンフレット ・チラシ ・ポスター 	<ul style="list-style-type: none"> ・郵送等により、学校側から情報を届けられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・費用がかかることが多い ・学校の判断による一方的な情報公開になりがちである
インターネット	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ ・動画 ・ブログ ・SNS 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠方の人にも対応できる ・多くの人に対応できる ・情報更新が容易である 	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的に閲覧する人（興味のある人）にしか情報が届かない ・学校の判断による一方的な情報公開になりがちである
対面	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会 ・オープンキャンパス ・行事・イベント ・学校の窓口 	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細な情報を伝えられる ・参加者のニーズに応じた情報を公開できる ・不明点をすぐ質問できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・日時が限定される ・参加者のみにしか対応できない ・対応者が必要である

事例 公開手段の使い分けにより、事務量を削減

- 中村調理製菓専門学校では、これまでの問い合わせ事項を踏まえて、ホームページ上で詳細な情報を公開し、FAQ(よくある質問)を充実しました。ホームページ内の情報で疑問を解決してもらうことで、学校への電話での問い合わせ件数が減少し、事務量の削減にもつながりました。

改善すべき事例 スマートフォン対応のホームページの情報が限定的

- スマートフォン向けのホームページを開設については、専用サイトとして学校概要と資料請求のページのみを作成しています。
- 高校生や保護者などはスマートフォンでのホームページ閲覧が多いと考えられ、情報公開の公平性・正確性などの観点からパソコンで見ると同様の情報を閲覧できるようにすることが望まれます。パソコンとスマートフォンなど、端末の種類に関係なくホームページを表示できる技術（レスポンシブデザイン）でホームページを制作すると、更新が容易になります。

情報公開の進めかた

- 専門学校に対するアンケートの結果では、進学先の選択にあたり、ホームページの情報が役立ったと回答した学生は約9割にのぼります。このように、ホームページは入学希望者にとって重要な情報源であることが分かります。また、専門学校に関する情報収集にあたり、高等学校の教員が利用する媒体は「専門学校の案内資料」が最も多く、次に「専門学校の教職員からの説明」、続いて「専門学校のウェブサイト」の順となっており、ホームページ以外の手段も依然として重要です。

参考

進学先の選択にあたり、学科のホームページの情報は役に立ったか

- 約4割の在学生在が、進学先の選択にあたり学科のホームページの情報は「役に立ったと思う（そう思う）」と回答しており、「やや役にたった（ややそう思う）」と回答した学生と合わせると、約9割にのぼります。ホームページによる情報公開の重要さがわかります。



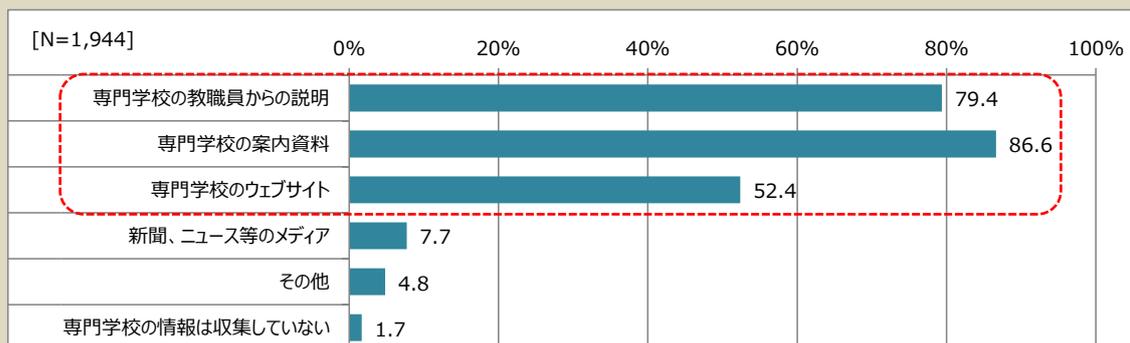
回答者：専門学校在學生（8,837人）、

（出典）「職業実践専門課程の実態等に関する調査研究」アンケート結果、2016年

参考

専門学校に関する情報をどのような媒体を用いて収集しているか

- 高等学校は、専門学校に関する情報を「専門学校の案内資料」を通じて収集している場合が最も多く（86.6%）、次に「専門学校の教職員からの説明」（79.4%）、続いて「専門学校のウェブサイト」（52.4%）が多いことがわかりました。



回答者：全国の高等学校（1,944校）、

（出典）「職業実践専門課程の実態等に関する調査研究」アンケート結果、2016年

情報公開の進めかた

- 最近では、ブログやSNS（Facebook, Instagram, LINE, Twitterなどのソーシャル・ネットワークキング・サービス）などを通じ、情報公開を行っている学校も増えています。また、「YouTube」などの動画から学校に関する情報を得る入学希望者や在學生が増えていることから、動画を充実させている学校も多く見られます。これらの広報媒体は、タイムリーな情報発信ができ、読み手も気軽に見ることができるという点において利点があります。

事例 Facebookを卒業生とのコミュニケーションに活用

- 東京YMCA医療福祉専門学校では、Facebookを卒業生とのコミュニケーションツールとして活用しています。例えば、メディアにとりあげられた卒業生の紹介や、現在介護福祉分野で活躍している卒業生の紹介、同窓会などの案内などを掲載しています。Facebookにより、学校情報の伝達や卒業生の様子の確認を行い、相互に有益な情報交換を行っています。

事例 在學生の声をTwitterで発信

- 名古屋コミュニケーションアート専門学校では、学校公式Twitterを利用して在學生が学校情報を発信しています。高校生にとって、年齢的にも身近な存在である在學生が学校情報を発信することは効果的であり、アクセス数は好調を維持しています。

事例 授業の様子を動画で公開

- 東京バイオテクノロジー専門学校では、授業で行われた日本酒醸造実験の様子を動画で公開したことにより、保護者からのホームページアクセスが増加しました。授業内容は保護者も注目しており、それを分かりやすく伝えるツールとして動画が役立てられています。

事例 学生の変化を動画で公開

- 森ノ宮医療学園専門学校では、学生の実技の様子を動画で撮影し、オープンキャンパス時に公開しています。実技の上達の変化を視覚的に理解できる動画での情報公開は文字で伝えるよりも有効であり、学習成果を効果的に伝えることができます。

事例 卒業生を通じた学校情報の発信

- 森ノ宮医療学園専門学校では、卒業生を介した情報発信をしています。実際に入学し、学校の魅力をよく知る卒業生の声は信頼性が高く、卒業生から聞いた話をもとに進学先を決定する生徒も多くいます。

コラム：外国人留学生に向けた情報発信

- 日本政府は2008年に、「留学生30万人計画」を発表しました。これは、日本への留学生を、2020年までに、当時の14万人から30万人に増やそうという計画です。
- 日本学生支援機構実施の「平成27年度外国人留学生在籍状況調査結果」では、大学における留学生数が1,607人（2.4%）増であるのに対し、専修学校（専門課程）の留学生数は9,427人（32.3%）増となっており、今後もさらに増加すると考えられます。
- 留学生確保に積極的な学校／団体は、ホームページなどの広報媒体の多言語化、海外での専門学校合同説明への参加、日本における日本語学校の教職員への説明を積極的に行い、留学生確保に努めています。
- 一般財団法人職業教育・キャリア教育財団は、「日本の専門学校ガイドブック」を13カ国語で作成し、ホームページで公開しており、各専修学校で利用できます³。
- 一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会（以下、「大専各」）は、専用の留学生支援サイトを立ち上げ、日本留学を目指す外国人及び受入側の教育機関に対し、専門学校の概要、専門学校を卒業生した留学生の進路先の公開、外国人留学生の採用や就労ビザ申請の基礎知識まで、幅広い情報発信を行っています。また、大専各は、日本語学校で学ぶ留学生に対して出前授業を実施し、日本語学校に通う多くの外国人が専門学校の教育に触れる機会を公開しています。
- ホームページの多言語化の例としては、中村調理製菓専門学校（日本語、中国語・簡体字、中国語・繁体字、韓国語、英語）や日本電子専門学校（日本語、英語、中国語・簡体字、中国語・繁体字、韓国語、ベトナム語、ミャンマー語、ヒンドゥー語、インドネシア語）などが挙げられます。



＜日本電子専門学校ミャンマー語ホームページ＞

³ <http://www.sgec.or.jp/ryuugakuguide/index.html>

(5) 情報の公開

- ホームページなどで公開する情報に疑義が生じると、学校への信頼にも影響します。公開する情報が正しく、また、最新であるかを常に確認しましょう。
- 高等学校の教員を対象とした実態調査からは、専門学校が公開する情報の信頼性は十分ではないと考える教員が一定数いることが明らかになっています。定義や更新日を明示したわかりやすい情報公開が学校への信頼を高める上で有効です。信頼できる情報の発信に、積極的に取り組んでいくことが求められます。
- 例えば、入学希望者・保護者や進路指導を行う教員からは、就職率、退学率、資格試験の合格率などの情報は学校選択にあたって注目されています。誤解が生じないように数値データの算出根拠・方法や解説もあわせて掲載し、わかりやすく情報を公開することが重要です。
- また、情報公開は、専修学校の教育活動及びその他の学校運営などの情報を発信するものであり、早期からの入学者募集を主目的とするような内容にならない点に留意することが必要です。専修学校への信頼性獲得の観点から、進路決定の早期化を回避しなければなりません。
- 実際に情報公開を行う直前には必ず以下の点について最終確認を行います。
- また、「3章 3.1 個人情報の取扱いや知的財産権の保護」もあわせて確認してください。

情報公開前に確認すべきポイント

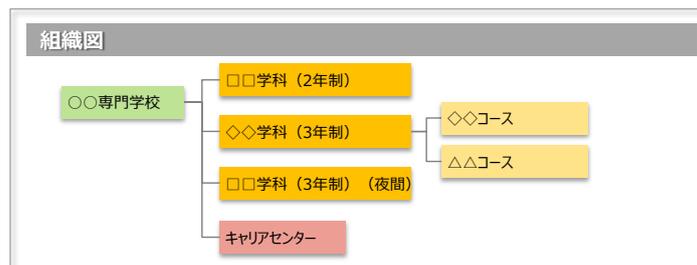
<input type="checkbox"/>	公開する内容が、情報公開の目的に沿っているか
<input type="checkbox"/>	誰に向けて公開する情報なのかが明らかになっているか
<input type="checkbox"/>	学校の教育の特徴がアピールできる内容であるか
<input type="checkbox"/>	(職業実践専門課程の場合) 公開内容が認定申請どおりであるか
<input type="checkbox"/>	公開内容が最新の情報であるか
<input type="checkbox"/>	公開内容が正確で、誰が読んでもわかりやすいか
<input type="checkbox"/>	公開の内容・方法を是正した際に、是正措置の内容と措置後の結果を明らかにできるか
<input type="checkbox"/>	公開内容が個人情報を不正に取り扱っていないか
<input type="checkbox"/>	情報の整合性がとれているか
<input type="checkbox"/>	公開する情報に偏りや抜け漏れはないか

- ガイドラインに示された情報提供項目のうち、ホームページ等に掲載する際に言葉ではイメージがわきにくいものについては、ビジュアル化が有効です。

■ 教育上の基本組織の情報公開例

- 教育上の基本組織の情報公開にあたっては、学科などの基礎組織の全体像を明らかにすることが望めます。学科・コース編成が複雑な場合、図示も考えられます。

<例 1>



<例 2>

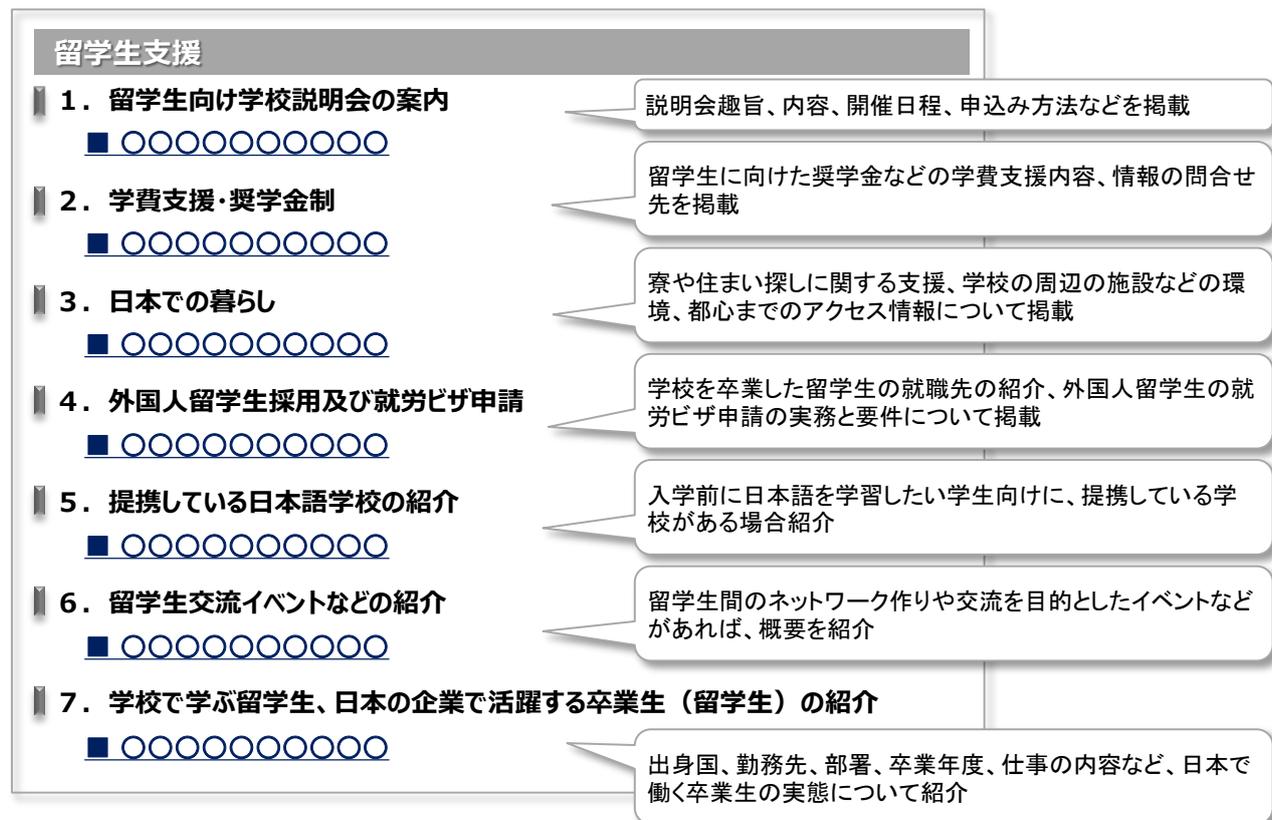


■ 生徒・学生の生活支援の情報公開例

- 学校への入学希望者が、具体的な入学後の生活イメージを思い浮かべやすい内容にしましょう。
- 生徒・学生支援の組織：
 - ✓ 修学支援、学習支援、生徒・学生相談、キャリア教育、就職支援、経済的支援、生活支援、健康支援、課外活動支援、障害を持つ生徒・学生支援、留学生支援など、生徒・学生の支援を担当する組織（課やセンターなど）が分かるようにします。

【例】留学生支援の紹介

ホームページなどで、入学を希望している、もしくは在学中の留学生向けに、入学や在学中に受けることができる学習支援や生活支援の情報について公開します。具体的には、以下の項目を公開することが考えられます。



【例】障害を持つ生徒・学生支援の紹介

障害者向けのサポート情報をホームページなどで公開している専修学校は多くありません。積極的に障害者向けの支援体制やサポート内容を公開することで、障害者の生徒・学生が安心して入学できる学校作りを目指しましょう。具体的には、以下の項目を公開しましょう。

障害を持つ学生支援

1. 障害を持つ学生への支援

■ ○○○○○○○○○○

学内の試験時や授業時の配慮に関する情報、学内の相談体制について掲載

2. 障害別の支援内容

■ ○○○○○○○○○○

聴覚・言語障害、視覚障害、肢体不自由、発達障害、その他の障害など、障害の種類別の学習支援内容について掲載（音声教材の文字おこし、手話通訳、代筆、点字、移動支援、生活介助など）

奨学金・学費支援体制・内容：

- ✓ 生徒・学生が通学するにあたり受けられることができる経済支援の内容・体制について、生徒・学生及びその保護者など、誰が見ても分かりやすい情報を整理します。人数や条件等について、誤解を招かないように記載することが重要です。

奨学金・学費支援

1. ●●専門学校 学費支援制度

支援制度の対象範囲、対象者数、条件、支援内容、支援額、制度利用希望者の応募方法などを記載します

1-1. 納入金免除制度

- 入試成績が受験生のうち上位5番以内の学生は、奨学金として100万円を学費から免除します。該当する方は、…（応募方法を明記）。

1-2. 無利子貸与支援制度

- 内容：○○○○○

2. 公的な貸与制度

2-1. あしなが育英会 (<http://www.jasso.go.jp/>)

公的機関のホームページへのリンクを示すなど、閲覧者が詳しい情報をすぐ見ることができる工夫をしましょう

2-2. 地自治体奨学金 (<http://www...>)

3. その他の教育ローン

3-1. ●●銀行の教育ローン (<http://www...>)

銀行や信用金庫などの教育ローンがあれば、可能な範囲で紹介しましょう

■ 就職状況の情報公開例

- 就職状況の情報公開にあたっては、就職者数・就職率と具体的な就職先を併記することが望まれます。
- 公開にあたっては、対象年度を明記するとともに、就職率や関連分野については、定義を具体的に示す必要があります。

就職状況

1. ○○学科における就職者数

卒業者数	就職希望者数	関連分野*への就職者数	他分野への就職者数	県内への就職者数
○名	○名	○名(○%)	○名(○%)	○名(○%)

(平成○年度)

2. ○○学科における平成○年度～平成○年度の就職先一覧

- ・○○株式会社
- ・株式会社▲▲
- ・●●…………。

*「関連分野」とは、○○業界、○○業界、○○職を指します。

■ 資格取得状況の情報公開例

- 資格取得状況の情報公開にあたっては、まず、課程の修了と同時に取得可能な資格や受験資格、もしくは取得や合格を目標とする資格・検定を明確にする必要があります。ただし、それぞれの資格・検定ごとの取得率や取得者数だけでは十分な情報ではありません。在学生に対する取得割合等の定義を明確化することで、教育方針や教育成果を明らかにすることができます。

資格取得状況

1. 資格取得状況（平成○年度 ○○学科）

- 検定2級は1年次に全員が、○○検定1級は2年次に希望者が受験します。
- ・○○検定1級合格者○名（○%、2年生に対する取得割合）
- ・○○検定2級合格者○名（○%、1年生に対する取得割合）

■ 学生納付金の情報公開例

- 学生納付金の情報公開にあたっては、初年度納入金や学費だけでなく、教科書代や実習費、試験費用などを含む、卒業までにかかる総額を示します。また、実習費等については必須、任意の別を記載するなど、誤解を招かないように留意します。

学生納付金・就学支援

1.〇〇学科 学費

		入学金	授業料	実習・実験費	合計
1年次	前期	XXX,XXX	XXX,XXX	XX,XXX	XXX,XXX
	後期	0	XXX,XXX	XX,XXX	XXX,XXX
2年次	前期	0	XXX,XXX	XX,XXX	XXX,XXX
	後期	0	XXX,XXX	XX,XXX	XXX,XXX

2.その他必要となる費用

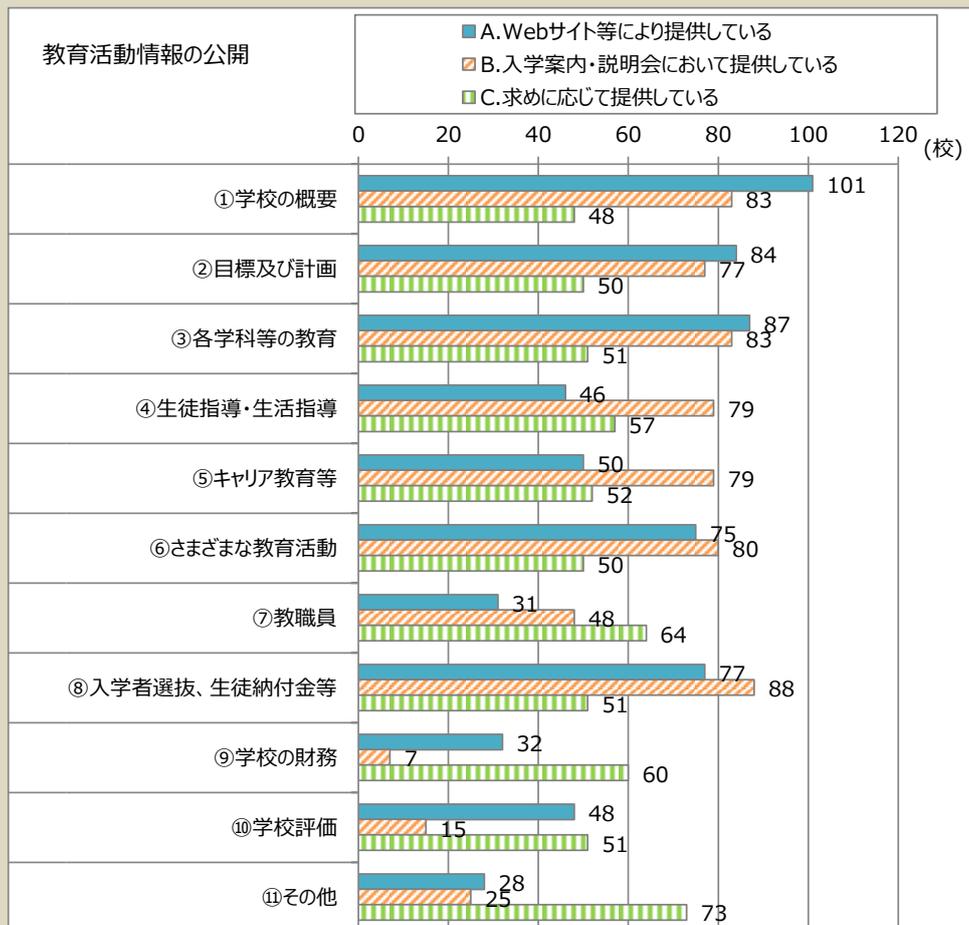
		教科書・用具代	研修旅行費 (任意)	国家試験費用	その他
1年次	前期	XX,XXX	XX,XXX	0	実習にあたっては交通・宿泊費がかかります。
	後期	X,XXX	XX,XXX	0	
2年次	前期	X,XXX	XX,XXX	XX,XXX	
	後期	X,XXX	0	XX,XXX	

情報公開の進めかた

- 以下に、高等専修学校及び専門学校が実際に情報公開を行っている項目、及び専門学校から公開される情報に対する高等学校の教職員からの評価についても掲載しました。

参考 高等専修学校がホームページにおいて公開している情報

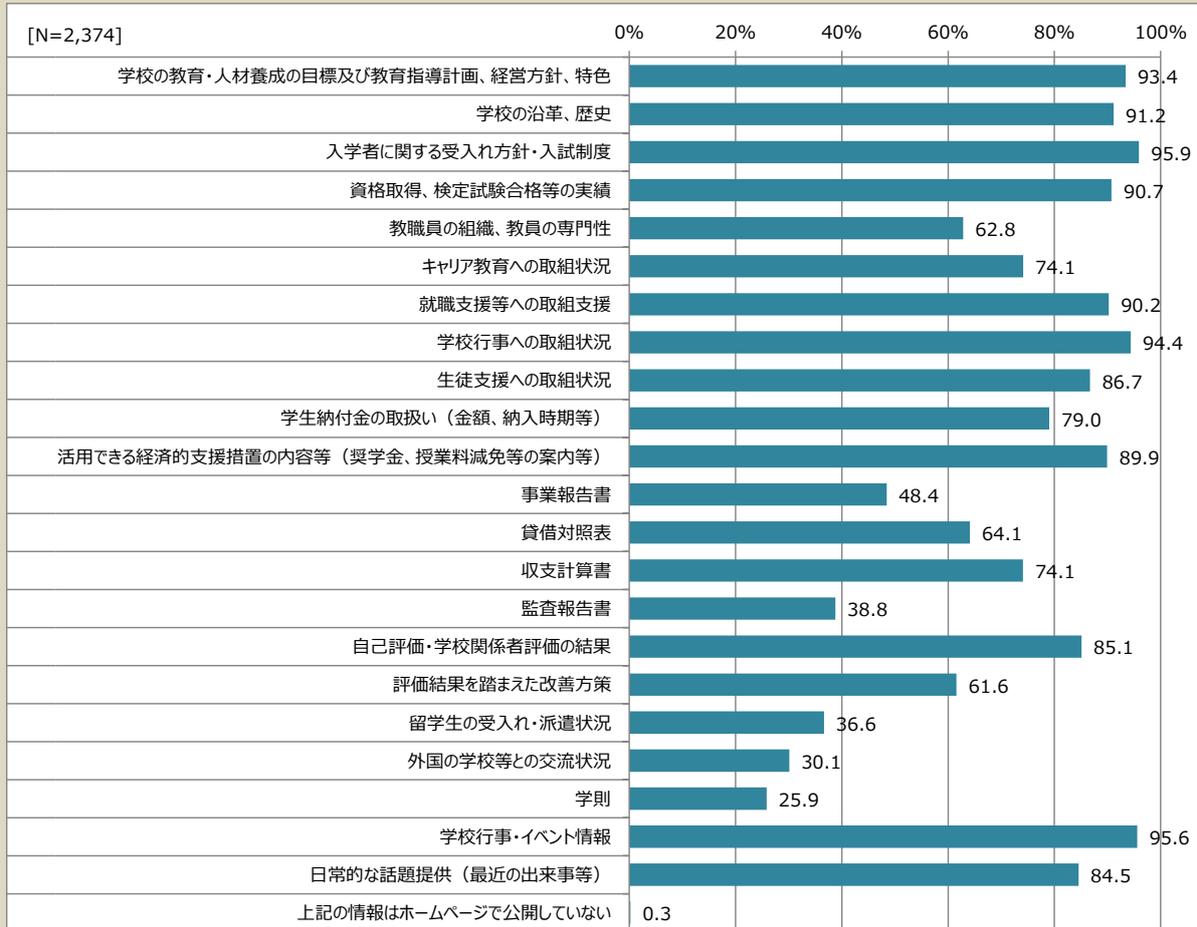
- 高等専修学校は、学校の概要や学校の目標及び計画、各学科等の教育、様々な教育活動、入学者選抜や費用面の情報を比較的積極的に公開していることがわかりました。一方で、学校の財務情報、その他の情報（学則、学校運営の状況など）についてはあまり公開されていないことが明らかとなりました（複数回答）。



回答者：全国高等専修学校協会会員（112校）、
 （出典）「平成28年度高等専修学校の実態に関するアンケート調査報告書」
 アンケート結果、全国高等専修学校協会 制度改善研究委員会、2016年実施

参考 専門学校がホームページにおいて公開している情報

- 専門学校は、ホームページを通じ、入学者に関する受入れ方針・入試制度や、学校行事などのイベント情報、学校の教育や指導計画などについて積極的に情報公開していることがわかりました。一方で、ガイドラインに情報提供項目として示されている学則や留学生などに向けた情報、監査報告書や事業報告書についてはあまり公開されていないことが明らかとなりました（複数回答）。

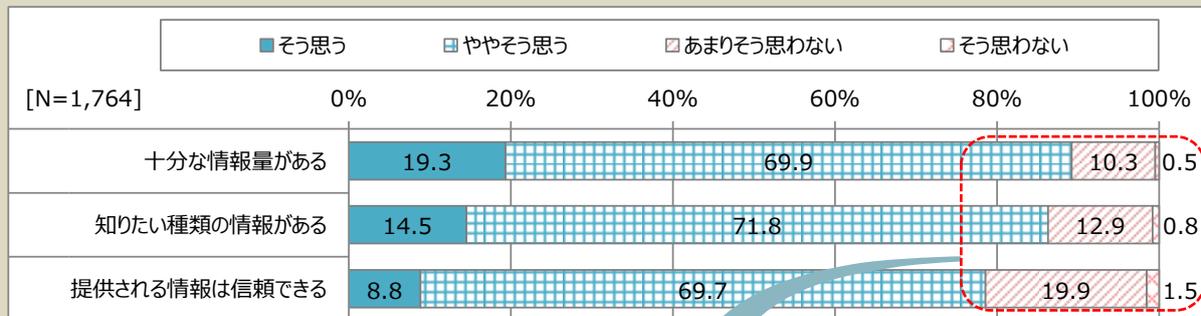


回答者：専門学校（2,374校）、

（出典）「職業実践専門課程の実態等に関する調査研究」アンケート結果、2016年実施

参考 専門学校の案内資料やウェブサイトで公開される情報について

- 高等学校の教職員のうち、専門学校が公開している情報に対し、「十分な情報量がある」、「知りたい種類の情報がある」、「提供される情報は信頼できる」と回答した割合は、いずれにおいても「ややそう思う」が最も多い回答結果となりました。一方で、情報の信頼性については、情報量や情報の種類と比較して相対的に低い傾向にあることがわかりました(単数回答)。



回答者：全国の高等学校（1,764校）、
 (出典)「職業実践専門課程の実態等に関する調査研究」アンケート結果、2016年実施

参考 専門学校の案内資料やウェブサイトで公開される情報について

- 専門学校が公開する情報が不十分と考える理由については、基本的な情報がない、情報に統一性がない、データの根拠が不明確、教育内容等に関する情報がないなどの意見がありました。

種類	代表的意見（要約）
基本的な情報がない	<ul style="list-style-type: none"> ・募集定員の充足率、正規教員数、経営状況、財務状況についての情報がない。 ・学費免除や奨学金などの情報が掲載されているが、その対象者数や希望者数が記載されていない。 ・教員の情報がほとんど掲載されていない。 ・最新の情報に更新されていないものが多い。
情報に統一性がない	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ごとに掲載している情報が異なっており、共通した記載事項が無いので理解しにくい。 ・学校によって情報量、情報の種類にバラつきがあり、比較しにくい。 ・就職実績や資格取得実績、国家試験合格実績などが、学校によって集計方法が異なっている。
データの根拠が不明確	<ul style="list-style-type: none"> ・資格合格率 100%があまりにも多い。資格取得率や就職率の母数が入学生なのか卒業生なのか明記されていない。 ・割合だけが掲載され、在 student 数や受験者数、合格者数の実数が示されていない。 ・年度の表示がなく、前年度の実績なのか、過去数年分の実績なのかわからない。
教育内容等に関する情報がない	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の授業の様子や生徒・学生の指導実態・対応が見えてこない。 ・授業についていけないなど課題のある生徒・学生をどのように支援しているか、入学後の指導の様子が不明。 ・掲載されている情報と、卒業生から聞いた実際の授業内容等に差がある。

回答者：全国の高等学校（1,764校）、
 (出典)「職業実践専門課程の実態等に関する調査研究」アンケート結果、2016年実施

(6) 公開内容の評価

- 情報公開の実施後は、その結果を当初設定した目的に照らして評価し、情報公開の内容や方法を見直すことが必要です。
- 評価の方法としては、関係者から意見を聞いたり、ホームページのアクセスログ分析を行うなどの方法があります。アクセスの多いページや動画の種類などを分析することにより、学校側はどのような情報が求められているかを把握することができます。

事例**在學生にホームページについての意見照会を実施**

- 東京バイオテクノロジー専門学校では、ホームページの公開内容やレイアウトについて在學生に意見を聞いています。事務局で作成した複数のレイアウト案を見せ、どれがわかりやすいか学生目線の意見をもらっています。学生からの意見を参考に、利便性の高いホームページを作成しています。

事例**入学者アンケートで入学希望者目線の情報を収集**

- 中村調理製菓専門学校では、入學生に対してアンケートを実施し、「どのような情報が欲しかったか」「どのような媒体で情報収集を行ったか」などについて質問しています。アンケート結果にもとづき、学校のホームページなどの情報の充実を図っています。

事例**学校関係者評価委員会の意見を反映**

- 上尾中央医療専門学校では、学校関係者評価委員会で受けた意見を情報公開に反映しています。「ホームページや学校案内を見ても学校の特色がわかりにくい」との意見を踏まえ、学校の特徴を8つに整理して示すなど、ホームページや学校案内の内容を更新しました。

改善すべき事例**アクセスログを無視した情報公開**

- SNSの投稿にアクセスした人や反応した人を確認したところ、実際にはほとんどが保護者や卒業生であることがわかりましたが、高校生向けの情報を発信し続けています。
→閲覧状況をアクセスログやアンケートで確認すると、当初の狙いとは違う人が見ていることや予想外のページが見られていることがあります。閲覧状況は読み手の情報公開に対する関心を表していますので、読み手の関心事項や頻度などに応じて情報公開の内容を見直したり、整理することが必要です。

事例 遠方の受験生向けに授業の動画を公開

- 穴吹カレッジグループでは、学校の教職員から「遠方の受験生向けに、オープンキャンパスの体験授業を学校ホームページ内でも見ることができれば良い」という意見があったため、YouTube において授業の動画を公開しています。例えば、穴吹コンピュータカレッジでは、卒業制作作品発表会などの様子を動画で流しています。



(出典) <https://www.youtube.com/user/AnabukiCollege>

事例 ホームページでの情報公開を充実

- 名古屋コミュニケーションアート専門学校では、従来の学校ホームページは、広報活動の一環としてイベントや学校公開の情報が中心でした。しかし、入学者や学校説明会参加者からは教育内容や入学後の学校生活についての情報が知りたいとの意見が多いことを踏まえ、現在はそれらの内容の充実を図っています。

NCA独自の「3年制教育」

3年制は実力が違う

専門教育 (専攻領域教育) 「業界に求められたカリキュラム」	人間教育 (キャリアデザイン) CAREER DESIGNの推進。フェローへ、学生一人ひとりの目標達成をサポート	ひとりひとりを大切に (スクールライフサポート) 安心して学ぶ環境。やる気をバックアップするシステムを用意
企業プロジェクト	就職サポート 1年次から行われる、キミ様ごとの就職サポート	デビューサポート 一人ひとりの希望に合わせてキミ様ごとの就職・デビュー指導を行います。

1st year クリエーター基礎力を養う

見たものや嗅いだもの、イメージしたもの、確実にかた子にするために、デザインやコンピュータを学び、基礎力を身につけます。未経験の人にもこの期間にしっかりと基礎を学ぶことができます。さらに、「企業プロジェクト」や作品制作を通して、プロと同様の仕事を体験しながら、クリエイターとしての基礎力を養います。

1年次からプロと同じ仕事を体験
課題のオリエンテーションから始まり、実際の仕事を体験しながら、そのプロセスを学びます。
自分がつくった作品の発表（プレゼンテーション）も体験します。

海外実習研修
アメリカやイタリア、フランスで、世界を代表するトップクリエイターの講義を受講。

〈総合デザイン科〉

NCA独自の実習授業

学内施設で、動物たちと楽しくリアルに「仕事」体験。

動物園や水族館、ドッグスクール、ドッグサロン、ドッグカフェ、動物病院…。本校の実習室は現場さながら、動物や魚類の飼育や繁殖を実体験できるのはもちろん、一般家庭のペットや飼い主さんをお客様として、コミュニケーションの方法を学ぶこともできます。

業界・周囲の協力

- 一般家庭のカットモデル犬 800頭
- ドッグトレーニング登録犬 300頭
- 外科手術への協力
- 移動動物園の連携

プロ講師の指導

- 獣医師
- ペットリマール
- ドッグトレーナー
- 水産館スタッフ
- ドムフィドトレーナー
- 動物園飼育スタッフ
- 教育機関
- 特別講師

+ プロ仕様の施設・設備



トリミングルーム



ヘルスケアルーム



飼育実習室

〈エコ・コミュニケーション科〉

(出典) <http://www.nca.ac.jp/creative/class/>

(7) 情報を活用した学校運営の改善

- 情報公開の過程で整理した情報や、情報公開の結果として得られた外部の方の意見は、学校経営や教育活動に活用することで、学校運営の改善につなげることができます。
- 例えば、教育課程に関する授業時数や内容などの詳細情報は、次年度以降の教育課程編成の際の有用な情報として役立てることができます。また、各種データの経年変化を確認し、過年度と比較して課題の対応策の検討に役立てることもできます。また、問い合わせ内容やオープンキャンパスで得られた意見には、学校運営の改善に資するものもあります。
- 情報公開のためだけに情報を収集・整理するのではなく、収集・整理した情報や情報公開で得られた意見を各担当と共有し、その情報を教育活動やその他学校運営にどのように活かすかという観点で検討することが重要です。

事例**教育課程の詳細に関する情報を整理し、教育課程編成の見直しに活用**

- 香蘭ファッションデザイン専門学校は、職業実践専門課程で公開が求められる「職業実践専門課程の基本情報について（別紙様式4）」を作成する際に、各科目の授業の内容や方法などが各回の授業単位で明確になったことで、学校内での授業科目の改善の議論の際には、個別の科目での指導内容や授業時間数、達成事項を共有した上で議論できるようになり、教育課程編成の改善が円滑になりました。

事例**最新情報を常に把握できるように学校内の体制を整備**

- 香蘭ファッションデザイン専門学校では、これまで各部署でそれぞれ管理していた既存の情報を集約して、事務室で一元管理することにより、各種の最新情報を常に把握できるようにしました。
- 例えば、学生の進路の決定状況や求人情報を逐次把握し、学科ごとに目標を持って進路指導を推進しています。これにより、教職員が一体となって進路未決定の学生への早期支援を充実させることができました。

改善すべき事例**収集・整理した情報は情報公開のみに利用**

- 情報公開後、集めた情報は特に学校内で共有せず、また、利用もしていません。
- 学校内で共有しないと、別の担当者が類似の情報を整理・作成してしまうといった、非効率な事務処理を生む原因となります。情報公開に取り組んでいる学校からは、「一度、情報公開をすれば、二回目以降の情報更新についての負荷は大幅に軽減され、また、公開する情報を整理する過程で、学校運営や情報管理の体制の見直しの契機になった」との意見が寄せられています。